

## 戀愛詩人

### 泉鏡花作

#### 全一章

これは都方より出でたる詩人にて候男、木曾の旅  
店に泊る。旅店の女玉ちゃん、芳紀十六、容顔玉の  
如し。戀愛詩人其純潔なるを愛して頗る意あり。こゝ  
に宿すること前後三回。三度めの時、其新作を懐に  
して行く。蓋し其女の美を歌ひたるものなり。是は  
私の書いたのだよといつて思入あつて女に見せる、  
玉ちゃんページを開いてつく／＼見て、曰く奇麗で  
すねト、詩人其意を得ず、問うて曰く何がト、玉ち  
やん曰く、何うしたらこんな細かい字が書けるんで  
すかト、詩人呆然として空しく歸る。こゝに於て失  
戀家となり、天を仰いで毎日ふさいで居る。友に同  
情のあるものあり、見舞うて問ふ、曰く君何うした  
のト、詩人溜息して、あゝ／＼僕はもう。笑つてま  
たいふ、山へ行つてふられたかイト、詩人憤然とし  
て馬鹿な！玉ちゃん無教育で、かの文明國に活字  
のあることも知らたいもの、僕が折角トいつてまた

歎たん一いつ歎たんす。

同情家だうじやうか手を拍うて日いく、そこが純潔じとんけつさト。

【完】